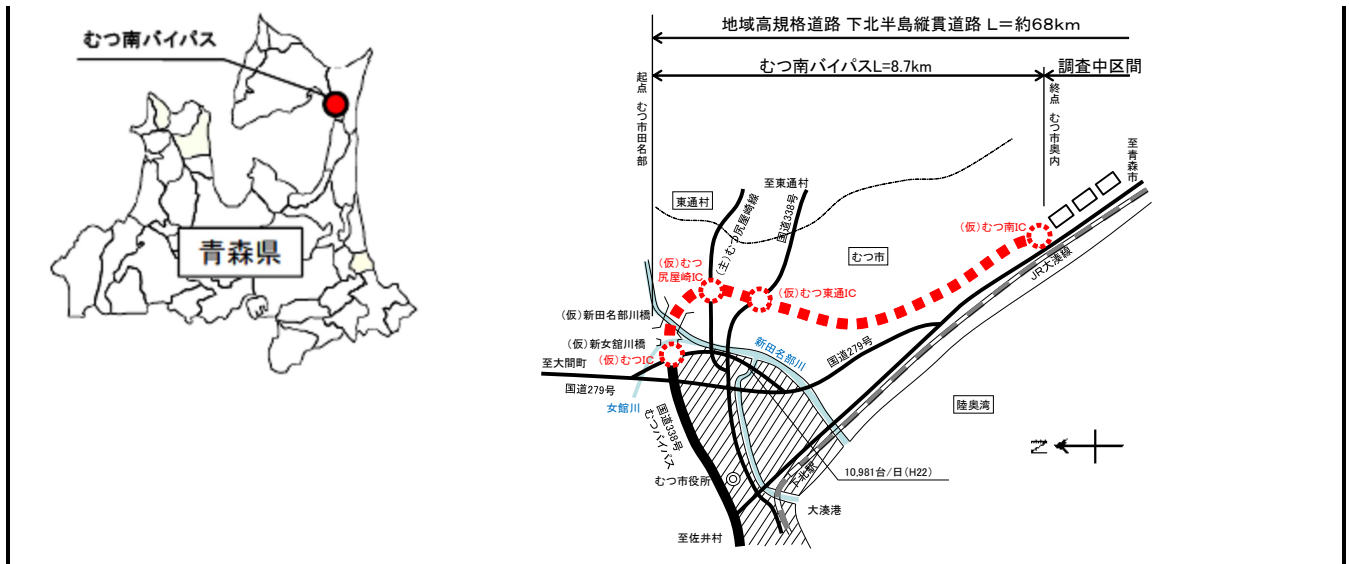


再評価結果（平成28年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課
 担当課長名：川崎 茂信

事業名	地域高規格道路 <small>しもきたはんとう</small> 下北半島縦貫道路 一般国道279号 <small>みなみ</small> むつ南バイパス		事業区分	一般国道	事業主体	青森県	
起終点	自： <small>あおもり</small> 青森県むつ市田名部 至： <small>あおもり</small> 青森県むつ市奥内			延長	8.7 km		
事業概要 下北半島縦貫道路は、下北地方生活圏の中心都市むつ市と東北縦貫自動車道八戸線を結び、地域間連携の強化、下北地域における産業等の発展を支援する延長約6.8kmの地域高規格道路であり、むつ南バイパスは本道路の一部を形成する延長8.7kmの自動車専用道路によるバイパス事業である。							
H15年度事業化	—		H18年度用地着手	H19年度工事着手			
全体事業費	190億円		事業進捗率	41%		供用済延長	— km
計画交通量	7,900台/日						
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 1.1 (残事業) 2.5	総費用 (残事業)/(事業全体) 79/178億円 (事業費：73/172億円) (維持管理費：6.2/6.2億円)	総便益 (残事業)/(事業全体) 199/199億円 (走行時間短縮便益：155/155億円) (走行経費減少便益：30/30億円) (交通事故減少便益：14/14億円)	基準年 平成27年			
感度分析の結果 (事業全体) 交通量：B/C=1.0~1.2(交通量±10%) (残事業) 交通量：B/C=2.3~2.8(交通量±10%) 事業費：B/C=1.1~1.2(事業費±10%) 事業費：B/C=2.3~2.8(事業費±10%) 事業期間：B/C=1.0~1.2(事業期間±20%) 事業期間：B/C=2.4~2.7(事業期間±20%)							
事業の効果等 ・豪雪等の自然災害等により通行止めとなる脆弱性を有する国道279号の代替路が形成され、第1次緊急輸送道路としての機能強化が図られる ・第三次救急医療施設（青森県立中央病院）への搬送時間短縮により、下北地域の救急医療体制の強化が図られる。							
関係する地方公共団体等の意見 国道279号沿線首長、議会議長、商工団体等により構成される「下北半島振興促進協議会」（会長：むつ市長）及び「下北半島縦貫道路早期実現促進協議会」（会長：むつ商工会議所会頭）により、当該バイパスを含む下北半島縦貫道路の全線整備（早期完成）が求められている							
事業評価監視委員会の意見 事業継続を妥当と認める							
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 ・下北半島縦貫道路有戸北バイパス（延長6.3km）が平成24年11月に供用開始 ・下北半島縦貫道路横浜南バイパス（延長7.0km）が平成25年5月に新規事業化							
事業の進捗状況、残事業の内容等 平成15年度に事業化、用地進捗率98%（事業費ベース）、事業進捗率41%（平成27年3月末時点）							
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 用地未解決箇所が点在し、工事進捗に支障を来してきたが、裁決収用手続きを進めているところであり、早期供用に向けて事業を推進していく							
施設の構造や工法の変更等 現場内外からの建設発生土の有効利用によりコスト縮減を図っている							
対応方針	事業継続						
対応方針決定の理由	以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる						
事業概要図							



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
 ※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。